

枚方淀川探鳥会 2026年1月

2026年(令和8年)1月4日(日) 9:00～12:00

日本野鳥の会大阪支部

前田初雄、甲田正二、西脇淳浩、香月清宏

松井正夫、新名泰博、平 軍二 (☎090-6901-1425)

明けましておめでとうございます。

今日は、そして本年も良き鳥との出会いを楽しみたいと思っています。



ミサゴ 20251207(平)

I 今月の鳥 ミサゴ

①ミサゴ タカ目ミサゴ科ミサゴ属

L 雄54cm 雌64cm 漢字名 鵟

学名 *Pandion haliaetus* 英名 Osprey

チェックリスト(Ⅱ)からわかるように、枚方淀川探鳥会ではタカの仲間でトビについてよく観察されているミサゴ、先月も観察できました。

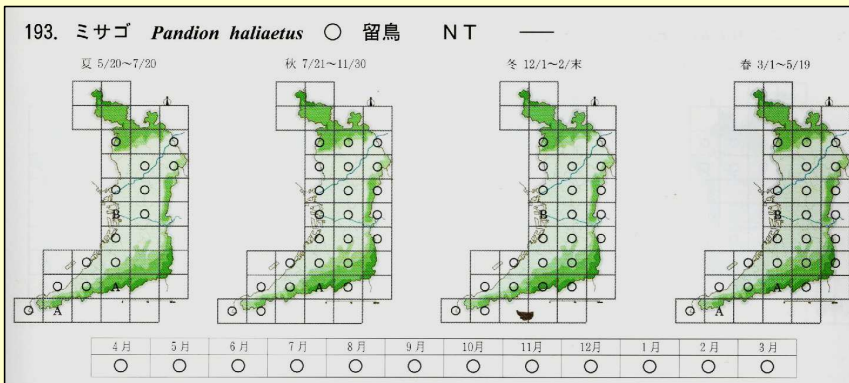
ミサゴは留鳥で餌が魚のため、内陸部では淀川のような大きな河川、大きなため池などでもよく観察されている。

②大阪府のミサゴ→

(大阪府鳥類目録 2016)

上述のように大きな川や池など、大阪府のほぼ全域で観察されている。

大阪府南部の湾岸に近い地域、岬町・阪南町・貝塚市、そして熊取町などに繁殖記録がある。(詳細P4参照)



ミサゴ 分類:タカ目ミサゴ科 Western Osprey *Pandion haliaetus*

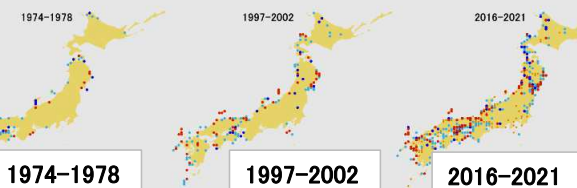
全長:54.5-63.5cm 翼長:448-520mm ふち長:54-60mm 体重:1331-2219g

環境省レッドリスト: 準絶滅危惧

各年代の分布状況の変化

メッシュ数	A	B	C
1974-1978	14	14	36
1997-2002	56	20	74
2016-2021	88	34	130

調査地数
1997-2002 92
2016-2021 132



← ③ミサゴ 日本での繁殖状況

全国鳥類繁殖分布調査2016～2021年

(鳥類繁殖分布調査会 2021年)

ミサゴは左図のように全国で繁殖状況増えつつある。

同調査会によると、魚食の鳥は、1970年代を境に、それまでの農薬汚染・水質汚染が徐々に減少したことで、回復している。カワウ・ダイサギ・アオサギなど、大型の魚食の鳥同じ傾向がみられるとのことである。

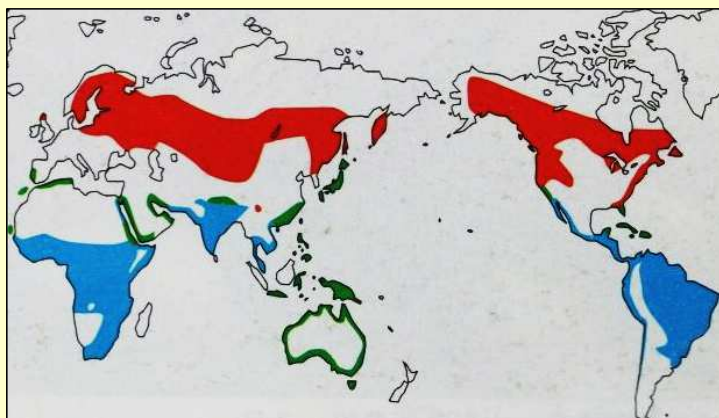
④世界のミサゴ分布図

真木・大西(日本の野鳥590) 2000年平凡社

日本に冬鳥として来ているスズガモの繁殖地が北極圏にあることを初めて意識した。

スズガモの繁殖図を見て、他の鳥の分布図を見直した所、マガン・コハクチョウなどの繁殖地も北極圏でした。

スズガモの越冬地は千島列島～日本列島、そして台湾及び中国南部などの沿岸部でした。



Ⅱ 探鳥会観察チェックリスト(第8版)

観察回数は、平が担当した2012年1月～先月2024年12月までの13年間の観察回数です。
100回以上は留鳥、50回前後は冬鳥or夏鳥、10回以下は珍鳥？

第8版	科名	鳥名	観察回数	2025				2026				第8版
				1	2	3	12	1	2	3		
				5	2	2	7	4	1	1		
12	カキ	マガモ	1									12
18		ツクシガモ	3									18
23		トモエガモ	2	9								23
24		シマアジ	1									24
26		ハシビロガモ	9	2			1					26
27		オカヨシガモ	52	42	18	8	55					27
28		ヨシガモ	21	5	8	2						28
29		ヒドリガモ	48	3	9	2						29
30		アメリカヒドリ	6									30
32		カルガモ	97	6		13	4					32
33		マガモ	58			1						33
34		オナガガモ	8									34
35		コガモ	62	3	12	13						35
39		ホシハジロ	46	35	27	4	31					39
40		アカハジロ	6									40
41		メジロガモ	1									41
43		キンクロハジロ	47	94	65	24	256					43
44		スズガモ	7	8	1	1	2					44
56		ミコアイサ	2		1							56
58		カワアイサ	50	11	5		6					58
59		ウミアイサ	3									59
64	キジ	キジ	54		1		2					64
69	アマツバメ	アマツバメ	2									69
80	カウ	ホトトギス	2									80
82		ツツドリ	2									82
83		カウ	1									83
89	ハト	キジバト	123	5	12	10	3					89
96	クイナ	クイナ	12									96
100		バン	23									100
101		オイバン	55	81	93	112	94					101
103		ヒクイナ	7									103
117	カイツ	カイツブリ	51	4	5	5	11					117
119	ブリ	カンムリカイツブリ	64	29	21	4	23					119
121		ハジロカイツブリ	4									121
127	チドリ	タゲリ	1									127
128		ケリ	27									128
134		イカルチドリ	9									134
135		コチドリ	32									135
136		シロチドリ	4									136
144	シギ	チュウシャクシギ	2									144
163		トウネン	1									163
165		ハマシギ	1									165
183		タシギ	5									183
188		イソシギ	89	1	1	2	2					188
190		クサシギ	3									190
192		キアシシギ	2									192
198		アオアシシギ	1									198
213	カモメ	ユリカモメ	22		2							213
221		ウミネコ	3									221
222		カモメ	3									222
226		セグロカモメ	20	2	2							226
233		コアシサシ	9									233
270	アビ	シロエリオオハム	1									270
315	ウ	カワウ	122	14	13	23	9					315
319	トキ	ヘラサギ	1	1	3	1						319
320		クロツラヘラサギ	1									320
328	サギ	ゴイサギ	10				1					328
330		ササゴイ	18									330
332		アマサギ	3									332
333		アオサギ	124	3	2	1	7					333
335		ダイサギ	120	2	2		12					335
337		コサギ	111	3	3	1	9					337
343	ミサゴ	ミサゴ	75	2	3	2	4					343
344	タカ	ハチクマ	2									344
352		ツミ					1					352
353		ハイタカ	36	1		1	4					353
354		オオタカ	27	1		2						354
355		チュウヒ	2									355
356		ハイロチュウヒ	1									356
359		トビ	102	2	3		2					359
363		サシバ	1									363
366		ノスリ	37		2							366
371	フクロウ	オオコノハズク	1									371
384	カノセミ	カワセミ	106	1	2		3					384
389	キツ	アリスイ	10									389
390		コゲラ	102	3	1							390
394		アカゲラ	6									394
402	ハヤブサ	チョウゲンボウ	57				1					402
407		ハヤブサ	31	2	2	1	2					407

Ⅲ 先月(12/7)探鳥会報告

スタート地点で関西医大の文字盤にいたハヤブサを見てスタート、裏側(河川敷)へ回って2羽(ペア)で観察した。猛禽類がハヤブサの他、

チョウゲンボウ、ミサゴ、ハイタカ、トビ、そして探鳥会初記録のツミと6種も観察できた。淀川本流ではキンクロハジロの大群(カウント数256羽)、ハシビロガモ、オカヨシガモ、ホシハジロ、スズガモ、カワアイサと7種確認したが、ヒドリガモ、マガモ、コガモは出なかった。冬の小鳥はツグミ、ジョウビタキ、シメ、ベニマシコ、アオジは出たが、タヒバリは確認できなかった。

毎年恒例の「淀川寛平マラソン」淀川河川公園(枚方地区)で開催されていたが、コースが例年と違って下流側に設定されていたことから、探鳥会には影響なかった。参加者が39名と多かったが、晴天で風のない探鳥日和となり、ゆっくり鳥を観察することができ、トータル47種の鳥が確認することができた。

第8版	科名	鳥名	観察回数	2025				2026				第8版
				1	2	3	12	1	2	3		
				5	2	2	7	4	1	1		
411	サンショウクイ	サンショウクイ	1									411
419	カササギヒタキ	サンコウチョウ	1									419
425	モズ	モズ	114	4	6	4	12					425
435	カラス	ハシボソガラス	125	23	9	28	57					435
436		ハシブトガラス	118	5	3	3	3					436
440	シジュウカラ	ヒガラ	1									440
442		ヤマガラ	7									442
447		シジュウカラ	118	4	2	4	4					447
448	ツリスガラ	ツリスガラ	1									448
450	ヒバリ	ヒバリ	88		1							450
456	ヒヨドリ	ヒヨドリ	196	320	270	300	215					456
458	ツバメ	ショウドウツバメ	6									458
461		ツバメ	84									461
462		イワツバメ	54	30	50	30	60					462
463		コシアカツバメ	23									463
464	ウグイス	ウグイス	119	4	2	7	2					464
467	エナガ	エナガ	93	6	4	1	1					467
476	ムシクイ	センダイムシクイ	7									476
479		エゾクシクイ	1									479
481		メボソムシクイ	5									481
482		オオムシクイ	5									482
484	ヨシキリ	オオヨシキリ	33									484
485		コヨシキリ										485
497	セッカ	セッカ	32									497
501	メジロ	メジロ	109	30	4	3	4					501
502	キクイタダキ	キクイタダキ	8									502
507	ムクドリ	ムクドリ	113	35	107	150	55					507
509		コムクドリ	5									509
512		ホシムクドリ	2									512
525	ツグミ	マミチャジナイ	1									525
526		シロハラ	54	5	7	3						526
527		アカハラ	2									527
531		ツグミ	80	1	33	14	4					531
532		ハチジョウツグミ										532
533	ヒタキ	エゾビタキ	9									533
534		サメビタキ	2									534
537		コサメビタキ	18									537
539		オオルリ	4									539
543		ノゴマ	1									543

第8版	科名	鳥名	観察回数	2025				2026			第8版
				1	2	3	12	1	2	3	
				5	2	2	7	4	1	1	
550	ヒタキ(続)	キビタキ	16								550
554		オジロビタキ	1								554
556		ルリビタキ	1								556
561		ジョウビタキ	60	4	6	6	3				561
564		イソヒヨドリ	39			3					564
568		ノビタキ	13								568
575	スズメ	スズメ	125	130	150	62	80				575
584	セキレイ	キセキレイ	42	1	1	1	3				584
585		ハクセキレイ	116	21	6	14	14				585
586		セグロセキレイ	109	2	1	1	3				586
595		タヒバリ	35			20					595
597	アトリ	アトリ	29	12	30	14					597
598		シメ	42				5				598
600		イカル	17	5		10					600
606		ベニマシコ	44	3			3				606
608		カワラヒワ	114	17	18	43	7				608
613		マヒワ	6								613
618	ホオジロ	ホオジロ	119	4	6	10	4				618
622		ホオアカ	6								622
625		カシラダカ	23								625
626		ミヤマホオジロ	1								626
633		アオジ	70	6	12	13	9				633
637		オオジュリン	17								637
9	キジ	コジュケイ	13								9
11	ハト	カワラハト(ハト)	121	100	60		51				11
30	ムクドリ	ハツカチヨウ	1								30
		カッコウSP	5								
		アイガモ	3								
		メボソムシクイSP	7								
		ヒタキSP	3								
種数合計(自動計算)				53	52	47	47				
個体数合計(自動計算)				1147	1108	1047	1144				
採鳥会参加者数				26	24	30	39				
13年間観察回数			1~2回	2017年1月~2024年12月の13年間 ①観察回数の少ない種(1~2回) ②観察回数多い種(100回以上) ③樹林伐採の影響を受けられる種							
			100回以上								
樹林伐採影響でなくなる種											



シメ (20251207)



ツグミ(20251207)



モズ (20251207)

IV 次回は2月4日(日)

午前9時 ラポールひらかた前

冬鳥が勢ぞろいして迎えてくれると思います。
今月と同じように、大阪支部HPからホームズ様式からお申し込みくださるようお願いします。

大阪府内のミサゴ繁殖について報告を探していた所、故小海途銀次郎氏が2013年度報告にミサゴの過去の調査結果が記載されていしたので、ご参考までに添付します。

☆ミサゴ *Pandion haliaetus*

本年、岬町で希少鳥類生息調査を行った結果、思わぬ収穫があった。三ヶ所でミサゴの繁殖地が判明したのである。岬町で赤松頂きに1巣、鉄塔上に1巣の二ヶ所と、阪南市で鉄塔上の巣を一ヶ所である。現在、貝塚市で1番（鉄塔）が繁殖をしており、大阪府では四ヶ所でミサゴの繁殖地が判明したことになる。

大阪府で初めてミサゴの繁殖が確認されたのは1959（S34）年で堺市南区にある大正池の横に生えた赤松に巣が作られており2羽の雛がいた。その後1964年まで同地で生息を続けていたが姿を消し、大阪府全域でも夏季に目撃される事は稀になった。2000～2001年のオオタカの生息調査の際、岬町の複数ヶ所で夏季にもミサゴが目撃された事から繁殖の可能性があると考え巢の発見に努めたが、その時は果たせなかった。

2008（H21）7月、（株）環境総合テクノスを通じて関西電力から連絡があり、4/7に高圧線の保全点検中に熊取町の鉄塔にミサゴが営巣しているのに気づいた。2/6に点検した時には巣はなかったとの事、初めての営巣らしい。そして4/16に抱卵を観察し、7/24の、観察中に雛が1羽巣立ったというものである。大阪府で最後に雛が確認されてから、54年ぶりの繁殖復活である。ただ保全の問題から繁殖が終わったあと鉄塔から巣を落とすのだが、翌年になるとまた巣を作る。よほどその場所が気に入っているのか鉄塔を変えながらもその付近から繁殖地を変えないでいる。そして本年新たに三ヶ所で営巣が確認された。更に1～2ヶ所の可能性が感じられるが大阪府南部を中心にミサゴの繁殖は定着しつつある。

ミサゴの営巣場所を送電線の鉄塔が好んで使われることは他県でも観察されている。陸上でのミサゴの本来の営巣場所は赤松の頂であったが1980年代に始まったマツノザイセンチュウによる松枯れ等で営巣に適した赤松の大木が少なくなった。それに代わるものとして鉄塔が選ばれたものと考えられる。

大阪府におけるミサゴの繁殖観察史

つがい名	観察年	状況	営巣地
大正池番	1959(S34).05.15	2雛在巣・約15日齢・赤松の頂きに造巣	堺市・大正池付近
〃	1963(S38).04.20	2卵抱卵中・〃	〃 〃
〃	1966(S41).03.06	巣作り中・〃	〃 〃
…この後、20年間ほど大阪府でミサゴは減少傾向が続き、1990年ぐらいから再び徐々に各地で姿が目撃されるようになる。…			
貝塚 番	2008(H20).04.16	抱卵中・送電線の鉄塔の頂き	熊取町・
…2009～2010年は確認調査を行わなかったが情報によると鉄塔を変え繁殖を続けていたらしい。…			
〃	2011(H23).06.21	2雛在巣・〃	貝塚市・水間付近
〃	2012(H24).06.?	1雛在巣・〃	〃 〃
〃	2013(H25).07.02	2雛在巣・〃	〃 〃
鳥取 番	2013(H25).03.30	巣作り中（4/14抱卵中）・〃	阪南市・桑畑付近
逢帰 番	2013(H25).04.28	抱卵中（親鳥在巣）・赤松の頂きに造巣	岬町・孝子付近
大曲 番	2013(H25).05.04	抱卵中（親鳥在巣）・送電線の鉄塔頂き	岬町・孝子付近